

第4回これからの高齢者住宅とコミュニティビジネスを考える部会 レポート

テーマ

高齢者疑似プログラム～
高齢者の身体状況・心理状況を実感し、商品・サービス開発につなげる

2013年3月15日16:00～18:00
名古屋大学東山キャンパス 経済学部演習室

■高齢者の心を推察すること、介助者の役割を理解すること、そしてそれを商品開発に活かすことを目的に部会を開催した。高齢者は下記の機能が低下しやすい。今回の体験では2, 4, 5, 6, 7, 8を参加者に体験してもらった。

- 1、記憶力 思考力 (物忘れ、思い込む)
- 2、見る (老眼、白内障、順応力)
- 3、嗅ぐ (嗅覚の低下)
- 4、聞く (聞こえにくくなる)
- 5、皮膚感覚 (感覚がにぶる)
- 6、握る (手先、握力、指先の力が弱る)
- 7、座る、立ち上がる (足腰が弱る)
- 8、歩く (バランスと足先がきかない)
- 9、排せつする (回数が多くなる)

●体験の様子 (一部)



↑ 視界不良の状態を体験するメガネ、耳が聞こえにくくなるヘッドフォン、各所の重り、関節の動きに制限を加えるパッド等を装着



↑ 巾着の開け閉め。指定したコインを取り出す。

箸で食事を運ぶ。箸も割りばしとプラスチックの箸を用意。素材によっても取りやすさが違う→



←広告、新聞がどのように見えるか、見やすい色、サイズは？

■体験者の声

- ・目が見えないことで不安になる。トイレ、階段などに工夫がある。3Dメガネや照明をつけた手すり (足元を照らせ、手をつく場所になる) 等、対応した商品を出している会社もあり、参考にしたい。
- ・トイレでの排泄 (チェックの開閉) などは本人も介助者も大変なことを身をもって感じた。
- ・新聞をみることが相当困難 (見えない)。文字が小さすぎてタイトルしか読み取れなかった。

…など

実際に高齢者に近い状態になったときにどうなるか、様々な気づきがある会となった。

次回開催は

2013年4月18日 (16:00-18:00)
名古屋大学東山キャンパス



参加ご希望の方は幹事 堀 (hori@successful-aging.jp) まで、ご連絡ください。